

I. 事業の概要

2019年度は、定款で定められた本会の目的「応用物理学及び関連学術分野の研究の促進に成果の普及に関する事業を行い、もって社会の発展に寄与する」を達成するため、下記の会長方針に基づき、事業活動を行う。

- ①会員サービスの向上
- ②国際化の推進
- ③産業界・異分野連携の推進
- ④学会組織運営の改革・定着

第66回応用物理学学会春季学術講演会はアクセスが良い東京工業大学で、また第80回応用物理学学会秋季学術講演会は北海道大学にてそれぞれ開催予定とし、会員及び参加者サービスの向上と収支改善を目指す。機関誌『応用物理』は第88巻を編集・発行し、応用物理学に関する学術情報や会員にとって有益な情報をタイムリーに提供する。同機関誌では会員サービスという観点からの記事の刷新や読者拡大（会員増強）を目指した施策の実施、国際化・グローバル化の推進、相互コミュニケーション型の情報発信、Web版・電子書籍版などの電子化媒体強化、編集作業の効率化なども行う。英文論文誌事業は、応用物理学分野における国際競争力のあるジャーナルの編集、専任編集長体制を継続（2019年4月から新任）し、編集体制を強化することにより掲載論文の質のさらなる向上を目指す。今後の収益構造の改善に向けては、応用物理学学会が有する技術コンテンツを、非会員を含めてより広く提供することを想定し、応物会館でのセミナー開催や賛助会員に対するサービスの拡充と合わせて検討を進める。さらに中長期的な会員減対策としては応用物理学各分野がどのような未来像に紐づくかをより広く周知してゆくことが重要であり今後こうした視点での議論の場を設け、具体的な施策として提案できるようにしてゆく。また「応用物理学学会将来基金」に寄附しやすい環境を整える。

1. 学術講演会、研究発表会、講習会等の開催及び人材育成、教育事業（公益事業1）

学術講演会企画・運営事業

応用物理学のカバーする既存分野における多様な角度からの研究発表・ディスカッションの場を提供し、応用物理学分野の発展に貢献する。

1) 2019年度学術講演会開催概要

①第66回応用物理学学会春季学術講演会

会期：3月9日(土)から12日(火) 場所：東京工業大学 大岡山キャンパス(東京都目黒区)

②第80回応用物理学学会秋季学術講演会

会期：9月18日(水)から21日(土) 場所：北海道大学 札幌キャンパス(北海道札幌市)

2) 参加者サービス向上

①満足度の高い講演会場の選定

②会員ニーズに応じた融合分野・新分野をテーマとしたシンポジウム、チュートリアルセッションの企画・サポート

③非日本語話者の会員の参加を促す環境づくり

④時勢に合わせた大分類・中分類の再編

3) 収支改善

①運営の効率化によるコスト削減

②新たな収入源の模索

会員サービス事業

(会員サービス委員会開催：5回)

1) 会員相互のネットワーク構築のためのプラットフォームの提供

①スチューデントチャプター、若手チャプター、インダストリアルチャプター、JIMeCの支援

②スチューデントチャプター、若手チャプター、インダストリアルチャプターの相互交流会をはじめとする若手会員向け企画のマネジメント

③インダストリアルチャプター、講演会企画・運営委員会との連携による新領域の開拓推進

2) 学生・若手会員の支援

- ①「キャリア相談会」の出展の有料化による経費削減と今後の在り方
- ②外国人会員の実態調査とサービス強化、留学生の会員勧誘（HP, JIMeC など）

国際学術交流事業

海外機関との連携による下記の事業など、本会の国際化に向けた活動を立案・実施。

- 1) 海外学会とのジョイントシンポジウム開催
- 2) 春季・秋季学術講演会での海外研究者交流会(President's Reception for Overseas Participants)の実施
- 3) Association of Asia Pacific Physical Societies(AAPPS)の活動（AAPPS Bulletinへの編集協力）
- 4) 2019 International Conference on Solid State Devices and Materials (SSDM2019), 32nd International Microprocesses and Nanotechnology Conference (MNC2019), 11th International Symposium on Advanced Science and its Applications for Nitrides and Nanomaterials/12th International Conference on Plasma-Nano Technology & Science (ISPlasma2019/IC-PLANTS2019)の取りまとめ
- 5) 分科会・研究会の国際的な活動（国際会議開催等）の支援
- 6) 海外学会との連携の検討, MOU 締結

学術・社会連携事業

学術会議、関連学協会・機関・団体との連携を深め、本会が取り組むべき新しい分野の創出や会員サービスに繋がる協力体制の構築を図る。（学術・社会連携委員会開催：1回）

1) 学術会議との連携

理学・工学系学協会連絡協議会及び関連部会等への協力

2) 関連学協会・機関・団体との連携及び協力

物理オリンピック日本委員会、国際物理オリンピック 2022, 日本工学会, 文部科学省, 科学技術振興機構 (JST), Association of Asia Pacific Physical Societies (AAPPS), 日本技術者教育認定機構 (JABEE), 他関連学協会・機関・団体

広報事業

公益法人としての応用物理学会のアクティビティ活性化及びビジビリティの向上に向けた広報活動を実施する。特に、(1)現会員に対する広報<会員の満足度向上>, (2)新規会員の獲得のための広報<会員数の増加>, (3)研究会, 分科会, 講演会の参加者増加<学会内のアクティビティ活性化>を重点的に実施する。

- 1) 若手研究者支援を目的とする寄付金制度をサポートするための広報活動
- 2) ウェブマスターによる学会 HP の統合管理
- 3) グローバルサイトを活用した海外向け広報活動
- 4) 展示会・国際会議などでの継続的な広報活動 (PVJapan, SEMICON JAPAN, その他商業展示会の出展など)
- 5) facebook/twitter/LINE@/InstagramなどのSNSを使った情報発信
- 6) 講演会満足度調査

男女共同参画事業

真に暮らしやすく個々が能力を發揮できる豊かな社会を実現するための一要素として、ワークライフバランスの推進を目指し、応用物理学会における男女共同参画の推進に取り組む。

- 1) 春季学術講演会での特別シンポジウムの継続開催
- 2) Network for Women and Men in Applied Physics (NEWMAP)を通じた女性研究者のネットワークの拡充への取り組みと定期的な会合の開催
- 3) 外部連携・国際連携に関する、学術・社会連携委員会や外部委員会との連携
 - ①女子中高生夏の学校への企画協力及び参加と、実行委員会のNPO法人化に伴う入会
 - ②男女共同参画学協会連絡会へのオブザーバーとしての参加
- 4) 代議員への女性の推薦と、女性研究者研究業績・人材育成賞（小館香椎子賞）の普及推進を支援

- 5) ワークライフバランス実現のための本質的な議論, しくみを含めた学習の機会の設置, 男女共同参画の諸課題に対する提言等を機関誌へ掲載
- 6) 年に数回男女共同参画委員会を実施

教育企画事業

学校教育における「物理ばなれ」による日本の科学技術やものづくりの長期的衰退を食い止めるべく, 理科教育に技術の視点を導入する啓発活動を行う。また, 将来応用物理学会を担う人材への応用物理学会の広報活動を企画運営する。

- 1) リフレッシュ理科教室及び関連科学啓発活動
 - ①各支部及び関東地域でリフレッシュ理科教室を実施
 - ②学術講演会の際, 年1回, FD リフレッシュ理科教室を開催
 - ③各省庁・自治体等との連携科学技術啓発活動等を実施
 - ④全国実行委員参画型の科学啓発活動を実施
- 2) 教育企画委員会運営活動
 - ①年1~2回, 活動検討のための委員会を開催

支部・分科会・研究会・新領域グループ

学術講演会, 研究会等を実施する

学会全体として

- 1) 学術会議をはじめ, 国内外の関係学術団体との連携及び協力
- 2) 関連学協会との連携による社会啓発活動推進
- 3) 日本工学会を通じて, 工学系(一部理学系)学協会との情報交換・連携活動への参画

2. 機関誌, 論文誌, 図書の刊行及び調査研究事業 (公益事業2)

機関誌企画・編集事業

応用物理に関する学術情報, 会員にとって有益な情報を提供する月刊機関誌『応用物理』の編集・発行。2018年度策定した下記基本方針のもと, 情報をタイムリーに提供, 会員サービスという観点からの記事の刷新, 読者拡大(会員増強)を目指した施策の実施, 国際化・グローバル戦略, 相互コミュニケーション型の情報発信, Web版・電子書籍版などの電子化媒体強化, 編集作業の効率化などの推進。

- 1) 基本方針
 - ①応用物理学会の会員に対する重要な基本サービスであることを心得, 会員となることのメリットとして応用物理学に関わる学術的記事や関連情報を提供する
 - ②世界で初めて「応用物理」の名を冠した雑誌としての開拓者精神と伝統を引き継ぎ, 幅広い分野を内包する応用物理学会の心柱として, 学会における価値観共有の礎となることを使命とする
 - ③優れた萌芽的研究にも着目し, 応用物理学会から新たな学術的, 産業的価値を生みだす一助となるべく努める
 - ④応用物理学会が内包する多様な分野の専門家からなる機関誌企画・編集委員会が記事の企画と編集を行い, 学術的な価値と質を担保する(機関誌企画・編集委員会開催: 6回)

1) 機関誌『応用物理』(第88巻)の概要

- ①年間12号(A4判, 総頁数1,000頁, 号平均84頁, 16,000部, 毎月10日発行)の編集・発行(冊子版および電子版), 毎月一般会員, シニア会員, 功労会員, 名誉会員, 賛助会員及び特別会員への冊子版配布
- 2) 機動力・速報性の強化
 - ①サイエンスライター・編集委員・外部記者などによる, 充実したタイムリーな記事の提供, 国内外の最新的话题をリサーチし記事化
- 3) 会員サービスという観点からの記事の刷新
 - ①読者層を絞った新企画の立案, 外部記者制度を活用した, 多様な情報収集の実施, 講演会, 論文誌, 支部・分科会, スチューデント

トチャプター、インダストリアルチャプター、NEWMAP、会議・委員会などの関連記事の強化、電子書籍版の閲読傾向及び日経BP社のWeb転載記事のPVなどの分析による、新たな企画の立案

4) 読者拡大（会員増強）を目指した施策の継続・強化

①日経BP社のWebメディア活用の推進、基礎講座の書籍化準備、J-Stage活用による非会員への記事PDF販売の検討、書店での試行販売の検討

5) 国際化、グローバル戦略の推進

①留学生のため英語（翻訳）記事掲載を継続・強化

6) 相互コミュニケーション型の情報発信

①会員からのフィードバック欄の強化

7) 電子化事業の推進

①電子版の普及推進、J-Stage活用によるPDF全文検索の実現、機関誌将来検討ワーキンググループの設置及び機関誌の完全電子媒体化の技術的・予算的計画の検討

8) 編集作業の高効率化

①編集委員会は原則隔月開催。ほかにメール審議、ビデオ会議システムを利用した、意思決定プロセスの効率化推進、編集委員を「解説記事（論文）担当」と「一般記事担当」とに分け、企画編集作業の効率化を推進、閲読は、解説記事は担当編集委員、一般記事は担当編集委員または編集部（事務局）の責任で実施、作業合理化のため、投稿規程、編集マニュアル、執筆用フォーマットなどの見直しを継続

論文誌企画・編集事業

応用物理学分野における国際競争力のあるジャーナルの編集。編集体制を強化し、掲載論文の質の向上を目指す。

（編集運営委員会会議開催：6回、定例編集委員会会議開催：2回、特集号編集委員会会議開催：2回）

1) 編集体制の強化

①専任編集長体制の継続（2019年4月から新任）

②Advisory Editorsによる事前審査体制の継続

2) 論文の質の向上

①JJAP Selected Topics in Applied Physics (STAP) 企画の推進

②JJAP 特集号企画のヒアリング・審査を通じての選定

③JJAP 招待論文 (Invited Reviews) 企画の推進

④APEX 招待論文 (APEX Reviews) 企画の推進

⑤APEX/JJAP 注目論文 (Spotlights) の選定

3) 著者・読者に対するサービスの向上

①招待論文、STAP論文、特集号論文の無料公開

4) その他

①JJAP 特集号関連国際会議への出展

②表彰：APEX/JJAP 編集貢献賞

③投稿・審査システム ScholarOne Manuscripts への移行

5) 発行予定

①JJAP：年12号（特集号企画12件）

②APEX：年12号

分科会

分科会誌、論文誌を発行する

3. 表彰, コンクール等の事業 (公益事業3)

応用物理学会業績賞, 研究分野業績賞, フェロー表彰, 論文賞, 講演奨励賞, APEX/JJAP 編集貢献賞, 支部表彰, 分科会表彰などの表彰事業を行う。

表彰事業

応用物理学の研究において優れた業績をあげた会員をより多く表彰する取り組みとして, 本会最高位の賞である応用物理学会業績賞をはじめ, 研究分野業績賞, フェロー表彰, 論文賞, 講演奨励賞, APEX/JJAP 編集貢献賞などの表彰事業を行う。

また, 各支部, 分科会等においても独自に支部表彰, 分科会表彰などの表彰事業を行う。

名誉会員, 功労会員も含めた本会の表彰事業全体の見直しの検討, 名誉会員候補者, 功労会員候補者, ほかの学術団体表彰への本会会員の推薦などを行う。

委員会組織 (委員会の必要性, 委員数) の見直しや, メール審議, WEB 会議システムの活用による旅費削減, 定常的な事業経費の削減努力などにより, 年間経費の削減を図る。

- 1) 本会の表彰関係全体の方針に関する事項
- 2) 本会名誉会員候補者の選考に関する事項
- 3) 本会功労会員候補者の選考に関する事項
- 4) 本会以外の学術団体に対する本会会員の学術賞及び学術助成金受領候補の推薦に関する事項

4. 管理業務

理事会

(定例理事会開催: 8回)

- 1) 本会の業務執行の決定
- 2) 理事の職務の執行の監督
- 3) 会長, 副会長, 常務理事の選定及び解職

戦略会議

(戦略会議開催: 8回)

- 1) 学会の中長期的な運営方針の検討
- 2) 学会運営における課題の整理・検討
- 3) 学会の経営戦略の策定
 - ①財務タスクフォース (中長期財務状況予測・事業方針提案)
 - ②新事業タスクフォース (公益目的事業内での新事業施策検討)

総務会議

本会の事業活動内容の変化に対応して, 関連する規程類を適宜見直して必要な改正や整備を行うことにより, 安定した事業運営を推進する。また, 会長を補佐して公益法人としてのガバナンスを維持するとともに, 本会事務局と連携して総会等の学会運営全般に関わる処務を遂行する。(総務会議開催: 6回)

- 1) 規程類の改正・整備
- 2) 他団体からの共催・協賛・後援に関する事項
- 3) 本会が外部機関と締結する契約書のチェック
- 4) 学会運営のリスク対応
- 5) 総会運営関連等の処務
- 6) 事業計画書・事業報告書の総括取りまとめ
- 7) 新事業タスクフォースの推進
- 8) 応物会館の設備・管理に関する事項

財務会議

学会を活性化するための中長期的な財務戦略を立案・推進し、活力ある事業活動とそれを支える安定した財政基盤の確立を目指す。また、公益法人として社会的責任を今まで以上に果たすことができる効率的な経理体制を整え、学会のガバナンスを高める。

(財務会議開催：5回)

- 1) 学会運営に関わる下記財務・経理業務の遂行
 - ①予算策定及び管理・決算（月次・年次）の取りまとめ
 - ②研究活性化支援金等補助金等の審査
 - ③公益法人を維持（公益法人認定基準を満たす学会運営及び内閣府公益認定等委員会への報告）
- 2) 応用物理学学会全体の中長期的な財務状況の精査と、損益改善方策の推進
- 3) 新会計システム導入による経理業務効率化の推進

会員・事務局会議

(会員・事務局会議開催：2回)

1) 会員管理

会員サービスの充実のために会員動向管理・分析を行う。会員の入退会・会費徴収・会員種別など会員に関わるすべての事項の戦略的な方針を立てる。また、会員サービスシステムを安定的に運用する。

- ①学生・院生会員の機関誌『応用物理』発送停止に伴う、会員サービスシステム改修
- ②会員の入退会・情報管理・分析、会員動静報告
- ③会費請求・決済業務の効率化と安定運用
- ④会員サービスシステム保守対応

2) 事務局運営

事務局の運営効率化と会員サービス向上に関する具体策の立案・遂行と職員の人材マネジメントを実施する。

- ①業務効率化と会員サービス向上のための業務分担見直し
- ②職員関連規則（就業規則、給与規程等）の見直し
- ③役員面談による職員の業務実態把握と信頼感の醸成
- ④自己啓発支援：管理者研修、各種研修、資格取得等
- ⑤職員表彰によるモチベーションの向上

基金による事業

「応用物理学会将来基金」は応用物理学及び関連学術分野の啓発等のための社会向けイベント、中堅・若手会員向け支援事業、その他の企画に補助を行い、寄付促進キャンペーンの実施、税額控除対象法人化に向けた寄付活動の戦略的推進を進める。「応用物理学学術・教育奨励基金」は研究奨励、次世代育成、国際化推進等の企画に補助を行い応用物理学会の活動に貢献する。「光・量子エレクトロニクス業績賞基金」、「女性研究者研究業績・人材育成賞基金」、「化合物半導体エレクトロニクス業績賞基金」、「光工学業績賞・功績賞基金」は特定の研究分野の研究において、顕著な業績をあげた者を表彰する。

II. 処務の概要

1. 定時総会 1 回, 定例理事会 8 回, 戦略会議 8 回, 代議員会議 1 回及びその他の会合を開催
2. 第 59 期役員候補者選挙を実施
3. 第 59 期代議員選挙を実施

III. 支部・分科会・研究会・新領域グループの活動

支部講演会, 研究会等実施予定回数

支部名称	国際会議	講演会	研究会	技術者育成	教育啓発活動	運営関連
北海道支部		1	13		4	8
東北支部		1	5		14	4
東海支部		1	12	3	15	7
北陸・信越支部	1	1	5	1	2	9
関西支部		3	9		1	8
中国四国支部		1	12	1	6	4
九州支部	1	1	10	2	7	10

分科会講演会, 研究会等実施予定回数

分科会名称	国際会議	講演会	スクール	研究会・講習会	シンポジウム	教育啓発活動	常任幹事会	幹事会
フォトンクス分科会				3	3			4
放射線分科会			1	3	2			2
応用電子物性分科会				5	2			2
薄膜・表面物理分科会	2			4	2		5	6
結晶工学分科会			1	3	1	1		7
応用物理教育分科会					3	5	2	3
超伝導分科会				2	1	1		4
有機分子・バイオエレクトロニクス分科会	1			4	6	4	4	2
プラズマエレクトロニクス分科会	1			9	2			3
シリコンテクノロジー分科会	3			20	3			2
先進パワー半導体分科会		1	1	3	1			3
次世代リソグラフィ技術研究会				3	1			5

分科会誌, 論文誌の刊行予定

フォトンクス分科会	「フォトンクスニュース」の刊行
放射線分科会	「放射線」の刊行
応用電子物性分科会	「応用電子物性分科会誌」の刊行
薄膜・表面物理分科会	「NEWS LETTER」の刊行
結晶工学分科会	「Crystal Letters」の刊行
応用物理教育分科会	「応用物理教育」の刊行
超伝導分科会	「超伝導ニュース」の刊行
有機分子・バイオエレクトロニクス分科会	「Molecular Electronics and Bioelectronics」の刊行
プラズマエレクトロニクス分科会	「Plasma Electronics」の刊行
シリコンテクノロジー分科会	「シリコンテクノロジー」の刊行
先進パワー半導体分科会	「先進パワー半導体分科会誌」の刊行

研究会, 新領域グループ講演会, 研究会等実施予定回数

研究会・新領域グループ名称		国際会議	講演会	シンポジウム	研究会	技術者育成	教育啓発活動	幹事(委員)会
研究会	量子エレクトロニクス研究会				3			2
	多元系化合物・太陽電池研究会	1	1	2		1		3
	光波センシング技術研究会			1	2			4
	スピントロニクス研究会			2	1	1		2
	シリサイド系半導体と関連物質研究会	1			2			3
	テラヘルツ電磁波技術研究会			1	1			3
	ナノインプリント技術研究会			1	3			3
	エネルギーシステム研究会			1	2			3
	有機ナノ界面制御素子研究会	1		1	1		1	2
	励起ナノプロセス研究会				1			1
	集積化MEMS技術研究会			2	2			2
	埋もれた界面のX線・中性子解析研究会			1	4		1	1
	界面ナノ電子化学研究会		1	2	2	1		4
	磁気科学研究会			1	2			2
	極限ナノ造形・構造物性研究会			1	3			3
	微小光学研究会	1			4		1	10
機能性酸化物研究会			2	1	1		3	
新領域グループ	量子情報研究グループ			2	1			
	量子化磁束動力学シミュレーション研究グループ				3			2
	強制的秩序とその操作に関わる研究グループ				2			3
	フォノンエンジニアリング研究グループ			1	3			3
	エネルギーハーベスティング研究グループ※			1	2			3

「産学協働研究会」は活動終了

※ 新領域グループ「エネルギーハーベスティング研究グループ」は新設